

# マンガと映画に見る文化の諸相

文学、マンガ、映画などの表現メディアは、外の世界について語る「ことば」と自らについて語る「ことば」を関連づけ、メディアの固有性を生かしつつ開かれた表現へと向かいます。マンガの中に描かれたさまざまなメディア（手紙、書物、テレビ・・・）、教養主義の盛衰と読書文化のかかわり、中央文化と地方文化の関係を視野に入れた映画史、異文化の受容、作り手と読み手のジェンダーなどの問題について、最近取り組んでいるテーマの中間報告として各発表者が話題提供します。堅苦しくない研究者や院生の交流・談話の場として企画しています。ぜひお気軽においでください！

## 【プログラム】

13:00 主催者あいさつ、講師・参加者の自己紹介等

13:20～13:50 発表① 三浦知志（東北大非常勤講師）「マンガのなかの手紙」

※マンガのなかに描かれる手紙とは、ふきだしやオノマトペとは異なる仕方でイメージと言葉が重なりあう場であるとともに、手紙の書き手と読み手の思いが重なりあう場であると言えます。具体例をもとに、マンガにおける手紙の表現について検討します。

13:50～14:20 発表② 森田直子（情報科学研究科）「高野文子『黄色い本』論」

※『黄色い本』は、1960年代末の新潟の女子生徒が『チボー家の人々』に心酔しつつ高校最後の一年を暮らす様子を描いた2002年刊行の作品です。読書行為をマンガでどう表現できるのか、に注目します。

14:45～15:15 発表③ 岩下朋世（相模女子大）「赤塚不二夫の少女マンガ作品」

※赤塚のキャリアの中でも省みられる機会の少ない初期の仕事である少女マンガ作品を取り上げ、当時の「少女マンガ」をめぐる状況について検討します。

15:30～16:00 発表④ 成田雄太（東北大非常勤講師）「地方映画史の方法論」

※近年の映画研究において、実際に作品が上映され受容される「場」への注目が集まっています。そのような視点から映画史を捉え直したとき、「地方」の問題が浮かび上がることとなります。本発表は、地方映画史とは何か、そしてそれはどのような方法論によって可能になるものなのかを検討します。

16:30～18:00 全体討論・歓談

2016年9月2日（金）13:00～18:00

情報科学研究科3階小講義室

（地下鉄「青葉山」駅徒歩1分）

どなたでも興味のある方の来聴を歓迎します（事前申し込み不要）

主催者：情報科学研究科・森田直子 文学研究科・森本浩一

お問い合わせ：[mona@m.tohoku.ac.jp](mailto:mona@m.tohoku.ac.jp)（森田）